

「人・まち思いかるた」展示中

28日、杉並区役所2階区民ギャラリーでは、区内の障害者施設の利用者や家族、そこで働く方々を中心になって制作した「人・まち思いかるた」が展示されています。この展示は、「すぎなみ Karuta プロジェクト（代表：荻本和利）」が、障がいのある方や介護をする方たちの苦労や気持ちを広く知ってもらい、誰もが暮らしやすい社会をつくることを目的にしています。展示は31日までです。

今年3月12日、阿佐谷地域区民センターでは、20回目を迎えた「まちづくり博覧会」が開催されました。この博覧会は、障がいのあるなしや年齢・性別に関係なく暮らしやすいまちを考えるイベントとなっています。この博覧会で、多くの来場者から共感を得たのが、「人・まち思いかるた」です。このかるたの制作は、2015年の秋から始まり、障がい者施設や介護施設の利用者やその家族、そして施設の職員、さらには一般の方からも多くの応募がありました。

なぜ多くの共感を得られるのか？それは、このかるたがやさしい言葉で綴られ、誰もが同じ人間で、「得意なこと」「苦手なこと」を持ち合わせているということに気づかせてくれることだと思います。また、みんなが少しずつ周りに思いやりの気持ちを持つだけで、笑顔が広がることを教えてくれます。



杉並区役所2階区民ギャラリーには、この「人・まち思いかるた」の50音の読み札と絵札が展示中です。そのかるたには、「赤・青・黄、色がたよりなんだ、聴こえない私たち」「1センチ、小さな段差が、つまづくもと」「歌声に笑う笑顔、車いす」「がんばりすぎ、老々介護の、お隣さんは大丈夫」など、どれも納得させられることばが綴られています。また、車いすの利用者でもゲームに参加できるよう、ビニール傘に絵札を描いて、お手玉を投げ入れて札を取る方式も生み出されています。この展示は、31日までですが、今後もイベント会場などで展示されるほか、すぎなみ Karuta プロジェクトのHPでご覧になることもできます。

【問い合わせ先】

総務部広報課： 03-3312-2111（内線）1502